



藻岩嶺



作：つぐつぐ



藻岩山と夏の青空



平松記念病院における「病院改善への取り組み」

患者様やその家族の意見を広く集積し、その要望や希望にできる限りお応えすることで対象の方々へのサービスの向上に努めていくことは、今や病院の運営にとっては一般的で当たり前の業務に位置付けられています。

そのような情勢の中で、当院では「よりよい医療の提供ができるように業務を幅広く見直し、日常業務の効率化と質の向上に取り組み、活力と魅力ある病院作りを目指す」ことを目的として、平成16年に「病院改善委員会」を創設しました。

外来、病棟の各所に「ご意見箱」を設置して広く患者様から意見を募っているばかりではなく、患者様やご家族が直接訴えられる意見には、職員は積極的に耳を傾けて病院改善委員会にその声を届けるよう配慮しています。ご意見箱に寄せられたそれぞれの意見は委員会が毎月回収して集約し、改善できる部分は即改善するよう努めています。もちろん、ご意見の中にはどうしてもその要望にお応えできないこともありますが、意見をいただくことで新たに気付くこともあります。実際にそれらの貴重なご意見を元にして、これまで様々な改善に取り組むことができました。

また、「病院満足度調査」や「外来待ち時間調査」などのアンケート調査を定期的に実施させていただき、辛い療養生活を強いられている患者様達に少しでも安心できる病院環境を提供しようと努力させていただいているところです。

今後も、時代のニーズと患者様本人ならびにご家族一人ひとりのご要望にお応えし、適切な病院運営に努めていけるよう頑張っていきたいと思っています。

平松記念病院 病院改善委員会
執筆代表者
事務長 佐々木 稔

平松記念病院

さきの ネットワーク

地域連携その6

地域生活支援センター さっぽろ

札幌市中央区大通西19丁目 WEST19

●地下鉄「西18丁目」駅

1番出口そば

TEL (011)622-1118



ここでのネットワーク第12回目は、「地域生活支援センターさっぽろ」をご紹介します。当院は、今や全国規模での展開に拡大しつつある「地域生活支援事業」を活用しながら、長期入院者の退院促進に力を入れています。その中で、この「地域生活支援センターさっぽろ」の相談員やこの事業の中核であるとも言えるピアサポートの方々と連携を図りながら業務を遂行しています。みなさんは、「地域生活支援センター」という存在をご存知でしたか？



「地域生活支援センターさっぽろ」は平成16年5月に大通西19丁目のWEST19庁舎の5階に札幌市が設置しました。地下鉄東西線西18丁目駅1番出口そばと利便性に恵まれた環境にあります。運営は札幌市精神障害者家族連合会が札幌市の指定管理事業の委託を受けて行っております。

「地域生活支援センターさっぽろ」は「ひとりひとりの個性や想い、笑顔を大切にします。」をモットーに、障がいのある方及びそのご家族の相談支援を中心とした相談支援事業と日中の交流・居場所等の場の提供を中心とした地域活動支援センターの2つの機能で業務を行っております。

相談支援事業については、障害種別を問わず毎月平均220件の相談支援を行っています。支援内容は様々ですが、必要に応じケア会議を開催するなど関係機関とも連携を図りながら支援を行っています。

次に地域活動支援センターについては、毎月平均850名の方が利用しており、年々利用者も増えております。最近の傾向として、統合失調症の方ばかりではなく発達障害、パーソナリティ障害の方の利用も増えておりますが、原則として精神障害者福祉手帳を所持している方、又は自立支援医療の対象者で精神科に通院治療されている方を登録利用の対象にしています。

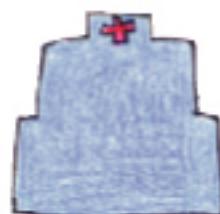
定期的にレクリエーション・昼食会等を取り入れ利用者の来所への動機づけにも積極的に働きかけております。毎月会報誌の発行、ホームページ(<http://www15.ocn.ne.jp/~center-s/>)の更新を行い支援センターの情報はもとより、使える社会資源についても周知出来る様努めしております。

最近では、病院や施設等から一人暮らしをされる方への支援を行う「障がい者住宅入居等支援事業(居住サポート事業)」、1年以上入院されている方が地域社会で暮らしていくよう支援体制の調整等を行う「地域生活移行支援事業」など、地域で暮らす障がいのある方をより包括的に支援が行なえるよう事業を展開しております。

最後に「地域生活支援センターさっぽろ」はこれからも、生活に焦点を当てた利用者主体の支援を行ってまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。



地域生活支援センターさっぽろ 精神保健福祉士 伊藤 光治



平松アワー 笑って きくとも

北川貴也さん
プロフィール



北川 貴也

北川 貴也です。
宜しくお願ひ
いたします。

今回のゲストは
この方!!
北川 貴也さん

札幌生まれの札幌育ちという生粋の札幌っ子。現在30歳。専門学校卒業後、平松記念病院に作業療法士として入職。今年で9年目。イチローの真似をして、朝カレーしちゃうくらいの無類の野球好きでもおなじみ。今回はそんな北川さんにインタビューを試みたのでご紹介いたします。



「作業療法士(以下、OTRと表記)になったきっかけは、祖母がリハビリしている風景を子どもの頃から見ていて、「リハビリ」の分野に自然と興味を持つようになっていったんですよね……」と北川OTRは語り始めた。当院のリハビリ課作業療法科は、いまや11人という大所帯となった訳だが、当初は病院にOTRが1人しかいなかった時代もあったという。9年目の今、これまでの軌跡を一度振り返ってもらい、苦労話や工夫などをあれこれ聞いてみることにしよう。

「当時は“作業療法”という言葉も定着していませんでしたし、世間一般でもOTそのものは知られていませんでした。今でこそ少しづつ広まってはきてはいますが、あの頃はまず病院内でOTというものを知ってもらおうと啓蒙活動に奮闘する毎日でした。院内で実践を発表する機会を多く頂いたり、パンフレットを作ったり、ポスター貼ったり、思い付いたことは何でもやりました。しばらくは院内でOTの認知度を高めることに努めていましたが、徐々に患者さんの必要としている活動の開設というものに目を向けるようになっていきました。最近であれば、メタボ対策のための『ダイエットクラブ』や『エクササーズ』、うつ病を対象とした『リラックスクラブ』、対人関係の練習の場を提供する『コミュニケーションゼミ』、外来患者様への専用プログラムなどニーズに合わせた活動を増やして変わってきてています。これは自分が常に考えていることの一つです、患者さんの選択肢が増えることがやはり大事だと思いますので…」と当時を振り返り、懐かしながらも熱く語ってくれた。「大所帯となり部下も増えたと思うが、彼らに伝えたいことは?」と尋ねると「ともに働くチームメイトなので、部下という感じではないんですよね」と前置きした後に、期待したいことは「開わり1つで患者さんの反応も違うし、一番基本となるところだと思うので“開わり”というのを大切にもらいたいと思います。経験を重ねていくとその関係がなあなあにもなってきてしまう恐れもあるので」と部署長らしい顔も垣間見ることができた。続けて、OTをする上で大切にしたいこととして「基本は患者さん本位の生活、その人らしい生活を構築していくために何ができるかを考えることですね。居心地のいい環境、参加しやすい環境を提供できるよういつも心がけています」と普段の取り組みについても触れてくれた。「自分の思うOTの魅力は、自分のパーソナリティが治療に利用できるという点でしょうか。人それぞれの特徴ってあると思うのですが、自分の性格の長所を活かすことで、結果として患者さんが喜んでくれたりしたら嬉しいな!と思いますね。悩みや迷いは常にあり、もちろんOTとしての限界もあるとは思うけど、今後もずっと作業療法士でいたいと思いますよ」と照れくさそうにしながらも、ハッキリとした顔り口で受け答えをしているのが印象的であった。

仕事の話も良いが、やはり気になるのは彼のプライベート。趣味は専ら野球観戦だという。日本ハムファイターズの本拠地札幌ドーム(本人は聖地と呼ぶ)へ足を運ぶだけでなく、高熱を抱えながらのオールスター観戦、WBCを観るために東京ドームまで遠征するなど、これだけでもかなりの野球好きということが分

かる。その他、職場の同志と地区的な駅伝大会に出場したり、予選敗退とはなったが士別市で開催された「国際雪ハネ選手権大会」への出場は記者の記憶にも新しい。とにかく「チーム」というものがとびきり大好きな熱いオトコであることは分かってもらえるだろう。

最後に、「これを読んでくれている患者さんたちに一言どうぞ!」とお願いすると、「これからも魅力のあるプログラムを作っています。何かあれば気軽にお相談ください。たくさんのお問い合わせをお待ちしています!」と人懐っこい笑顔を見せた。「今は院内、ディケアでのOT活動の他に、クリニックバス、訪問看護などにも参画していますので、今まで以上に他職種との連携というのも力を入れたい。院内のOTの領域をもっともっと広げていきたい。」と今後の展望についても尽きることなく構想を語ってくれている。今回のインタビューを通して、本当に部署思いな人柄が伝わってくる。

蛇足にはなるが、部署長としてお父さん的な立場の北川さんも、プライベートでも文字通り「パパ」となり、責任感が今までにも増して強くなったのかも知れない。後のOT熱はまだまだ下がらないだろう。これからも当分日が離せそうにない。今後も彼に密着して取材を続けていくつもりである。

(著者H.S)



次回は テイケアの「吉田雅幸」さん へバトンを渡したいと思います



また次回も
聞かせて
くれるかな?



去る8月15日(水)、夏祭り＆盆踊りが開催されました。今年は天候に恵まれ、とても暑くて活気のある1日となりました。地域から一般の方の参加も年々増え続けています。北大のよきこいチーム「縁」も駆け付け祭りを盛り上げてくれるなど、地域密着を目指す当院にとって、本当に良い地域交流を可能にしてくれる一大イベントですね。

夏祭り &盆踊り



恒例となった夜の花火



灘安やきそば



北大「縁」のよきこい演舞



いい天気に恵まれました



やきそば売り出し中



スイカと松井さん

2009年デイケア キャンプ



今年もデイケアキャンプやっちゃいました。写真は余市の円山公園。昼食後の1コマです。

この後一行は岩内へ。生憎初日は大雨と強風で期待していた屋外バーベキューと花火は出来なかったのですが、皆で協力して何とかビンチを乗り切ることが出来ました。

集団での1泊2日旅行という普段できない体験を通してデイケアメンバーの幹もいっそう強くなったようです。



理念

適切な精神科医療・保健・福祉をめざし
次の二つの柱を基礎に据えます。

- 精神障害者の医療および保健を行い、自立のために社会復帰および社会的経済活動への支援をします。
- その障害の予防に取り組み、市民の精神保健の向上をめざし、地域に根ざした病院を目指します。

基本方針

理念を実現するために5つの基本方針を定めます。

- 私たちは、人権を尊重し、信頼と満足感を持っていただけるように努めます。
- 私たちは、あいての身になって「受容的态度をもって接する」ように努めます。
- 私たちは、自己研鑽に努め、情報を共有し、連携・協力し合うチーム医療を目指します。
- 私たちは、常に新しい医療・保健・福祉システムを提供できるように努めます。
- 私たちは、地域における自らの役割を認識し、地域に貢献します。

医療法人社団基葉会 平松記念病院

編集後記



先日、ある研修会に参加してきました。働く上で、人生の上で“読書すること”が大切で、それをやめると知的能力が死んでいく…と習い、恐ろしくなりました！興味あることはどんなことでも知識を吸収し、脳を動かす事が大切なようです。この広報誌も読み物ですので、ぜひ活用してくださいね。

担当 山田綾子

発行人 平松記念病院 広報委員会 発行日 2009年9月25日

〒064-8536 札幌市中央区南22条西14丁目

ホームページ：<http://www.hiramatsu-mhp.or.jp>

E-mail：webmaster@hiramatsu-mhp.or.jp

TEL：(011)561-0708 FAX：(011)552-5710